医学生・看護学生と地域住民をむすぶコミュニケーションマガジン

vol 6
2014.6

めでる

「春の宿泊研修・比叡山根本中堂にて」

Contents

スポットライト
滋賀医科大学長就任のご挨拶
滋賀医科大学 学長　塩 田　浩 平

滋賀県の医療の現状と未来
滋賀県健康医療福祉部 次長
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 正会員　角 野　文 彦

特集
春の宿泊研修 in 大津・湖南方面

地域自慢
歴史ある美しい町並み 近江八幡市

病院紹介
東近江総合医療センター／水口病院

「人」
済生会滋賀県病院　臨床検査・病理診断センター
センター長　馬 場　正 道

看護学生向け情報
看護師の仕事の魅力
訪問看護ステーションで働きたい看護学生をサポートします

実習情報
医学生・看護学生のための「病院研修・実習・見学」

調査
この春、滋賀医科大を卒業した医学生、看護学生の進路
滋賀医科大学里親学生支援室長
滋賀医療人育成協力機構理事　垰 田　和 史

講演報告／総会報告／年度別会員数と会費・寄附金の状況
お便り／編集後記

NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」広報誌

滋賀医科大学長就任のご挨拶

滋賀医科大学
学長　塩田浩平

平成26年４月に滋賀医科大学学長を拝命いたしました。滋賀医科大学と滋賀県の医療のために微力を尽くしたいと考えております。皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

滋賀医科大学の重要な使命の一つが、地域医療の充実と地域医療を担う人材の育成であります。そのためには、滋賀県内の医療機関や医療従事者、住民の皆様と大学との密接な協力関係が不可欠です。滋賀医療人育成協力機構は「地域医療を地域で育てよう」を合言葉に、地域医療に貢献する「良き医療人」を育成するための様々な支援事業を推進してこられました。その中心となってこられた吉川隆一理事長（元滋賀医科大学学長）をはじめとする機構の役員の皆様の献身的なご尽力と、その活動を支えてこられた滋賀県内の多くの医療機関ならびに住民の方々のご協力に心から敬意を表します。また、その中で滋賀医科大学の多くの学生が、地域「里親」制度や宿泊研修などで機構の皆様方に大変お世話になっておりますことを改めて感謝申し上げます。こうした貴重な体験と地域の方々との触れ合いを通じて、滋賀医科大学の学生が地域医療の意義と重要性を再認識することができ、自らのキャリアとして家庭医、総合医を選択する者も少なくありません。

医師研修制度の影響もあって、現在わが国では医師の偏在や地域医療の崩壊という深刻な問題が起こっております。そうした状況において、滋賀医療人育成協力機構の存在は非常に力強く、地域医療を志す若い医師・看護師・学生の大きな支えになっております。意欲ある医師・看護師が、滋賀県で働いて地域の医療と住民の健康増進に貢献しつつ、自らの生涯教育とキャリアアップの機会をもち続けるためにも、滋賀県唯一の医科大学である滋賀医科大学と滋賀医療人育成協力機構が緊密な連携と協力関係を維持して行くことが重要であります。優れた地域医療の担い手が育つために、滋賀医療人育成協力機構の更なるご発展を祈念し、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

滋賀県の医療の現状と未来

～滋賀県は皆さんを求めています～

角野　文彦
滋賀県健康医療福祉部 次長
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 正会員

滋賀県は沖縄に次いで年少人口比率の高い県です。しかし、人口は既に減少に転じており、年少人口も2010年の約21万人が2030年には約15万人になると推測されています。

一方、75歳以上の後期高齢者は約14万人から約24万人に増加します。2025年には65歳以上の高齢化率は27.5%、75歳以上は16.0%となり、今は若い地域である大津や湖南の75歳以上人口は2025年にはそれぞれ1.78倍、1.97倍と急速に高齢化が進みます。高齢者の増加は多死社会の到来を意味します。

2012年に死亡数は約12,200人でしたが、2025年には約16,300人となります。病院での看取りがほぼ限界に近いことから、約4,000人の方は病院以外での看取りが必要となります。

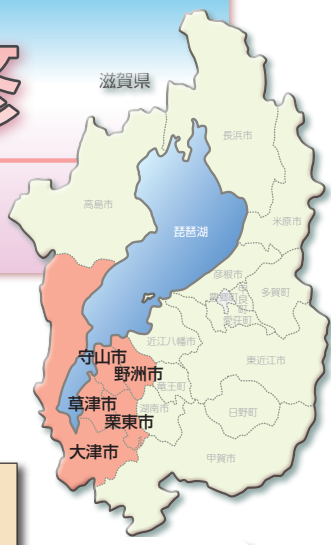
2013年２月の滋賀県医師会の調査では、回答のあった診療所医師533名の内211名（41%）が訪問診療を実施していますが、188名（37%）は往診をしていません。これでは将来に在宅医療を十分に行うことができません。このような現状と将来予測から、県では「地域を支える医療福祉・在宅看取り」を未来戦略プロジェクトの一つとして位置づけ、様々な施策を実施しています。

後期高齢者の増加は「治す医療」から「治し支える医療」への政策のパラダイム転換を意味します。そのためには医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、セラピスト、介護職、社会福祉士、ケアマネ等々による多職種協働のチーム支援が必要です。このチームにしっかりと参画していただける医師を養成・確保するため、昨年度から在宅医療セミナーを開催しています。

また、今年度からは家庭医養成のために弓削クリニックのご協力を頂き、蒲生医療センターで家庭医養成プログラムをスタートしました。このプログラムに参加し、滋賀の人と自然を愛し、地域での生活を楽しんでいただける先生が一人でも多く残っていただけることを祈念し、筆を置きます。

春の宿泊研修

in 大津・湖南方面



「大津・湖南方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、３月18日㈫～19日㈬の２日間、滋賀県で学ぶ医学生・看護学生や滋賀県出身の医学生・看護学生を対象に地域・医療理解の為の宿泊研修を実施しました。今回は、滋賀医科大学と自治医科大学の学生合わせて13名を含む総勢23名での研修となりました。

1日目　大津市坂本地区の地域見学と診療所、介護福祉施設などを訪問しました

滋賀県庁（説明）
滋賀県健康福祉部の行政組織図を元に、滋賀県の健康や医療、福祉について、具体的にどのようなことを担当しているのかなどのお話がありました。

大津市民病院・大津赤十字病院（車中見学）

滋賀院門跡（説明・見学）
伝教大師（最澄）の教え、滋賀院に残る数々の文化財、小堀遠州作の庭園について、じっくりと説明を聞きながら見学をしました。

坂本民主診療所（説明・見学）
診療所の開設当時のお話を含め、診療所の日常の役割や在宅医療の現状、地域包括ケアについてのお話がありました。

日和の里、デイサービスセンターこすもす、良の家、雅荘、宅老所はな（班別に見学）

KKRびわこ（交流会・宿泊）

交流会第１部
講演／済生会滋賀県病院 社会福祉事業課　石井　啓介 氏
テーマ「地域医療支援病院としての当院の役割」
講演／滋賀県がん患者団体連絡協議会　菊井　津多子 氏
テーマ「医療者に伝えたいこと」

交流会第２部
研修先の方や里親・プチ里親など13名の方々に、それぞれのお立場からのご意見をいただくなど、貴重な交流の場となりました。

2日目　世界文化遺産　比叡山延暦寺、滋賀医科大学霊安墓地を見学、栗東市の病院を訪問しました

比叡山延暦寺・横川霊安墓地（見学）
滋賀医科大学献体篤志の会にゆかりのある阿弥陀堂をはじめ、根本中堂などを見学。その後、霊安墓地内の掃除を行いました。

滋賀県立成人病センター（車中見学）

済生会滋賀県病院（説明・見学）
救急センター見学後、救命救急や病理医についてのお話、病院の概要についてのお話がありました。その後、ヘリポートや院内を見学しました。

草津総合病院（車中見学）

春の宿泊研修交流会でご講演いただきました菊井さんからメッセージをいただきました。

滋賀県がん患者団体連絡協議会　会長　**菊 井　津多子**

若葉がきれいな季節になりましたね。過日は医学生さんに医療を受ける側の声を届ける機会を頂きありがとうございました。

真摯で希望や夢に満ちた学生さん達との交流はとっても楽しかったです。そして、研修先を高島市民病院に決められた学生さんの国家試験合格！というビッグニュース!!　最高に嬉しかったです。

さて、私は37歳でステージ３Ａの乳がんと診断され４年目に局所再発しました。言葉にできない衝撃の再来でした。立ち向かえたのは何より主治医との信頼関係。そして、心の居場所、ピア(仲間)の存在でした。その時の思い、そしてがん友が残していった多くのメッセージが現活動の原点となっています。

当協議会は次のような活動をしています。

○がん対策参画。昨年度「がんと就労」のアンケート調査で垰田先生とご一緒しました。

○ピアサポーター養成（県助成金事業）第４期生が修了し53名が「がん患者サロン」で活動しています。

○「がん患者サロン」をがん診療連携拠点病院と協力連携して県内７か所で運営しています。

その他、がん体験集「こころ綴り あした天気にな～れ」発刊、「がん患者作品展」、「滋賀県がん患者大集会」開催。今年度は「がん患者力」向上事業、ホームページ開設を県の助成金で取り組みます。

がん医療は「がん対策基本法」で法的に基本的施策が謳われ、「がん対策推進基本計画」で総合的かつ計画的に国県レベルで推進されていますが、背景にある問題も浮き彫りになってきています。大きく影を落としているのが医師不足、看護師不足ではないでしょうか。そしてがん治療を受ける側にもがん患者に求められる治療の選択、情報過多による戸惑い、長期に及ぶ治療、高額治療費等、社会の中でがん患者として生きていく上で色々な問題が浮き彫りになってきています。

がん治療が進んで“がんは治る時代”と言われても、現実はまだまだ死に関わる病気です。でも、私はがん治療の限界はがん医療の限界ではないと感じています。主治医や看護師さんが最期まで諦めないで傍らで伴走して下さったら、たとえ体は癌には負けても、心は満足を覚えるでしょう。医療者、がん患者双方の満足こそがん治療の限界を超えた良いがん医療と言えるのではないでしょうか。

そこで、未来の医療者に期待することは、当たり前のこと、正しい診断と迅速かつ適切な治療です。そして、諦めない追求心を持ち続けてほしい。患者との信頼関係を築いていってほしい。がん患者を一人の人間としてみてほしいということです。

是非とも滋賀県に残ってください。“ええ先生やな！”といわれる医師、看護師になってください。そして何より健康に気を付けて一人の人として幸せな人生を歩んでください。県民、キャンサーサバイバーとして応援し続けます。

最後になりましたが、地域里親学生支援事業の発展をご祈念申し上げます。

訪問先の皆様からのメッセージ

研修を受け入れて

済生会滋賀県病院　救急科　部長　**塩見　直人**

肌寒さが残る３月19日の午後、滋賀医科大学医学科、看護学科の学生さん約20名が当院を訪問されました。大津・湖南地域における「宿泊研修」の２日目であり、救命救急センター処置室やヘリポートなどを見学していただき、私から当院救命救急センターの役割および現状について説明しました。

当院は湖南地域の基幹病院として３次救命救急センターを併設しており、2008年以降、救急科を新設して「断らない救急」を実践してきました。2009年11月から開始した救急トリアージシステム、2011年９月開始のドクターカーシステムなどについて説明し、その後、質疑応答の時間を設けました。生命に関わる重症患者はドクターカーにより病院前から診療を開始する。一方、トリアージの結果、軽症と判断した患者は開業医もしくは外来を受診していただく。短時間の説明でしたが、当院の「地域住民のために重症患者は必ず受け入れる」という方針を理解していただいたものと考えています。

学生さんからは多くの質問があり、救急医療に対する関心の高さが感じられました。とくに滋賀県で初めてとなるドクターカーに関しては鋭い質問が多く、私たちにとっても大変有意義な時間を過ごすことができました。

救急医療は「医の原点」です。判断および処置の一つ一つが生死を分けるかも知れない救命救急センターは、医学生・看護学生の研修の場として最適の環境であると考えます。今後も救急現場での研修が継続して行われ、この滋賀県で医学教育を受けた学生さんが一人でも多く滋賀県の救急医療に携わってくれることを期待しています。

研修を受け入れて

済生会滋賀県病院　総務課　**小林　健志**

２月の中旬、准教授の垰田先生から当院見学の受入要請を受けました。病院で広報を担当している私にとりまして、病院の取り組みや湖南医療圏の現状を知ってもらう機会をいただくことは大変にありがたいことですので、お話はとてもうれしかったのですが、どのような内容をどのような切り口でご紹介するのか、さらにその話を誰にしてもらうのかはとても迷いました。

今回は当院の特徴の一つでもある三次救急について救急科の塩見医師と、病理診断の現状を紹介すべく馬場医師に話してもらうようセッティングしました。両医師とも、当院の現状や役割、今後の展望などを熱心に語り、多くの学生さんだけでなく引率の先生方からもたくさんの質問をいただき、興味を持っていただけたのではないかと感じております。

最初にスケジュールをいただいた時には、当院での滞在時間を一時間半と聞いておりましたので、空き時間を作らずにお過ごしいただけるか心配していましたが、予定していた当院の特徴でもある無料低額診療や困窮者支援事業（なでしこプラン）の紹介を割愛するほど時間いっぱいになってしまいました。

今後この研修に参加された学生さんの中から、滋賀の医療人となってくださる方がおられたら大変うれしいことです。これからもこのような機会がありましたら是非協力させていただきたいと考えております。

訪問先の皆様からのメッセージ

研修を受け入れて

坂本民主診療所　所長　今村　浩

３月18日、里親支援事業「宿泊研修」のみなさんを、坂本民主診療所にお迎えして、懇談をしました。当診療所（医師２名）は、老人保健施設と在宅ケアステーション「こすもす」（訪問看護・介護、居宅、認知症デイ）を併設し、健康友の会(現在3,102世帯)と二人三脚で運営し（約200名のボランティアなど）、26年目の施設です。
地域医療の日常は、①外来医療（一日約100人通院）と慢性疾患の加療（現在約2,000人登録）、②健診活動と癌の発見（年間約30人）、③在宅医療（現在約140人）の３つが主な内容です。その中でも、特に在宅医療の現状を紹介し、参加者への期待を述べました。

参加した皆さんが医療者として一人前になる約10年後は、いわゆる「2025年問題（団塊の世代が全員75歳以上になるの、多死時代）」に突入し、地域での訪問診療患者数が現在の２倍～３倍にもなる時代です。評判がいまひとつの「サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）」も含め、在宅看取り数もそれだけ増えます。滋賀県は現在在宅看取り率が全国６位と多いほうですが、それでも県民の56%が自宅で最後は困難と思っている調査報告があります(2012年調査)。その理由は、「介護してくれる家族に負担がかかる」(78.6%)、「症状が急に悪くなった時に不安」（60.7%）などです。その在宅医療を支えるべき在宅療養支援診療所は、2013年３月現在、滋賀県は101ヶ所と全国平均よりかなり低く、地域医療を担う医療者の養成が喫緊の課題となっていることを紹介しました。

参加者のみなさんからは、「医療知識は遅れないか。」とか「私生活は大丈夫か。」などの質問がでました。それに対して、「医学ジャーナルを毎月10冊必至で読んで（目を通し）、遅れないようにしている。」、「複数医師で運営すれば私生活は大丈夫。これからは複数医師で、診療所を運営する時代になると思う。」とお答えしました。

研修を受け入れて・交流会に参加して

滋賀民主医療機関連合会
事務局長　塚本　昌子

かねてより滋賀民医連の事業所では、地域医療を学ぶフィールドとして積極的に学生さんの受け入れを行ってきました。私自身は、今回はじめて交流会に参加させていただきました。

闘病の当事者の方からの講演は、医療従事者の私たちの日常医療を振り返る良い機会となりましたし、何より、地域医療に関心が高い学生の皆さんの熱心さに感心しました。

また、学外でのこのような学びが、意思のある学生をはぐくむ生きた教材であるのだと痛感しました。

貧困と格差が広がった地域では、想像以上に様々な事例があります。机上では学べない、生の地域医療の現場・施設実習でその一端に触れる事は、その後の医師人生にとって貴重な体験となります。今後とも、微力ではありますが、その体験のお手伝いができればと思います。

■訪問先の皆様からのメッセージ

研修を受け入れて

介護老人保健施設　日和の里
副施設長　**出崎　智也**

今年３月18日に宿泊研修ご参加の皆さんをお迎えさせていただきました。

当日はあまり時間に余裕をもってご案内できませんでしたが、老健という施設の雰囲気を少しはご覧いただけましたでしょうか。

日和の里は滋賀県湖西地区の保健医療を支える坂本民主診療所の患者様や地域住民の皆様よりのご要望を受け、2004年に開所しました。ひとくちに老健といっても、在宅復帰やリハビリテーションの支援だけでなく、在宅限界の方や終末期療養の方の受入れも行っており、様々なニーズにできる限り応え、「地域で安心して住み続けられる」ことを追求し多機能型の支援に取り組んでまいりました。これからの日本の高齢期医療、また介護保険制度の改定等により病院から在宅へ療養のステージがシフトされていくことが予想されています。老健はその中間の施設としての役割を担うことが期待されていること、また在宅医療を支える家庭医の存在にも今後大きな期待が寄せられていると考えています。

今回の研修を通して、地域医療の実態を直接見て、聞いて、感じていただけたことが将来、ご活躍される皆様にとって何らかの糧となれたのであれば幸いです。

研修を受け入れて

デイサービスセンターこすもす
責任者　**勝嶌　芳一**

３月18日に２名の看護学生さんが見学研修に来られ、短い時間ではありましたがデイサービスセンターこすもすのご利用者様との交流を図りました。ご利用者様に学生さんの紹介をし学生さんからも少し緊張気味でしたが自己紹介をしてもらいました。すると、大きな拍手をしてくださり「がんばりや～」「私らも助けてな」などの声を掛けられるご利用者様もおられました。また、「これからの日本を頼むで」と言われる方もおられ、近い将来この地域でこの経験を生かして力を発揮して頂くことをご利用者様、職員ともに願っています。研修、大変お疲れさまでした。

▲デイサービスセンターこすもすの皆様

研修を受け入れて

NPO法人宅老所はな
田中　収人

社会福祉とは国民の幸福であり、そのために私たち援助者は制度の活用や必要に応じて制度に働きかけなければならないと考えています。しかし、利用者の方々１人ひとりのニーズは多岐に渡り、私たち事業所だけでは利用者の方々の望む暮らしを支援することはできません。そこで重要になってくるのが他職種との連携や他分野との協働だと感じています。

今回、事業所を見学された医学生の様子をみて、将来地域包括ケアを推進していく上で欠かせない人材になると感心致しました。政策は政策のため、医学は医学のためにあるのではなく、マクロ実践や臨床は人の幸福のためになければならないと考えています。制度を縦割りではなく横断的に見たときに医療を人が望む暮らしのために提供できるジェネラリストとなる人材だと感じ、共に心を砕いていきたいです。

今回のすばらしい研修で得た学び、そして知識や技術・独自性を存分に発揮し医学の追及・医療の推進・人材の育成・連携と協働の質の向上・社会福祉の推進等、多大な分野でのご活躍を願っております。

滋賀医科大学霊安墓地について

滋賀医科大学解剖学講座　准教授
滋賀医科大学里親学生支援室員
相見　良成

医学を学ぶ上で最も基礎となる学問に解剖学があります。人体について「形･構造」を学ぶものですが、このためには御篤志によって献体いただいたご遺体を解剖させていただくことが必須となります。滋賀医科大学の新設にあたり、この医学教育に欠かせない献体を円滑に遂行するため、献体団体である「しゃくなげ会」が昭和50年6月に設立されました。

会の発足と同時に、ご献体頂いた方々に対して深く感謝し、その霊を慰め、永くその徳を顕彰し、功績を讃えるための「慰霊碑ならびに納骨墓地」の建設が計画されました。そして滋賀県、しゃくなげ会、比叡山延暦寺など多くの関連各位のご支援、ご協力により比叡山横川（よかわ）霊山（りょうぜん）の一角（ドライブウェー・横川駐車場から徒歩約30分）に『滋賀医科大学霊安墓地』が建立され、昭和52年9月17日に開眼法要が執り行われました。

昭和52年11月7日から本学医学科１期生による解剖実習が始まり、15名のご遺体が解剖に供され、実習後に荼毘に付された後に、昭和53年7月11日に霊安墓地の納骨堂へ学生の手によって納骨されました。以来これまでに解剖をさせて頂いた1400余名のご遺骨が納められてきました。

霊安墓地には開学当時の関係者の様々な思いが込められており、慰霊碑の石には滋賀県産（志賀町大谷川）の石が使われ、当時の山田恵諦天台座主による「倶會一處」のご揮毫が刻まれています。また慰霊碑は滋賀医大と向き合う方向に建てられており、これは安置された後も滋賀医大の学生や教職員を見守りたいという御霊の、あるいは見守って頂きたいという我々の気持ちを表しているものであります。

このように霊安墓地はご献体くださった方々への慰霊の場であるのみならず、滋賀医大に対する人々の期待や、それを受けとめる我々医療人の決意など、さまざまな関係者の気持ちのシンボルとしても大変大切な場所であります。

今回学生たちは、里親研修の訪問先で多くのみなさんの「生きた」声を聞くことが出来ましたが、霊安墓地に眠る御霊の声なき声も感じ取り、医療を学ぶものとして気持ちを新たにしたことではないでしょうか。

宿泊研修に参加して(学生の声)

注）学年は H26.3 時点のものです。

滋賀医科大学　医学科１年生　北 川 奈津子

今回の宿泊研修では大津・湖南地域ということで滋賀県の中でも大学に近い地域のことを学ばせていただきました。研修に参加する前までは大津市は大学があり、１年間通ったので他の地域に比べて知っているつもりでした。しかしながら、参加してみると知らなかったことばかりで文化についても医療についてもたくさんのことを学ぶことができました。

訪問させていただいた診療所及び介護老人保健施設では高齢者施設の不足を知りました。介護老人保健施設に入れるのを待っている高齢者の数を教えていただいた時はとても驚きました。また、同時に在宅医療の必要性を改めて感じました。

夜の交流会ではがん患者団体連絡協議会の方からお話を聞かせていただきました。患者さんが感じていることや医師に対して思っていることを聞くことができたのは私にとってとても良い経験になりました。

私は将来、何かで働きたいかとか、どこで働きたいとかいったことはあまり決まっていません。そんな私にとって宿泊研修は将来を決めていくための大切な経験である気がします。これからもできる限り参加し、滋賀県や医療のことをもっと知りたいと思っています。

滋賀医科大学　看護学科２年生　鳥 原　菜 那

この度は地域「里親」学生支援事業に参加させていただきまして、ありがとうございました。里親という名前だけは知っていたのですが、参加させていただくのは今回が初めてでした。今回の春の宿泊研修で里親の素晴らしさを実感でき、以前より参加させていただいていれば大津・湖南だけではなく滋賀全域で有意義な経験ができたのに、と少し残念に思っております。私は滋賀県民でありますが、自分の生活拠点以外ではあまり活動せず、滋賀のことをよくわかっておりませんでした。これからは私が少しでも滋賀の魅力を発信できるように努力したいと思います。

２日目の比叡山延暦寺や、横川・霊安墓地は、医学科３回生の方が解剖体納骨慰霊法要で来られます。私たち看護学科は行く機会がないのですが、見学という形でも学習させていただいた身でありましたので、私も行きたいと常々思っていて、今回は行くことができて本当に良かったです。

２日間、誠にありがとうございました。

滋賀医科大学　医学科１年生　関 根　浩 史

19日のみの参加で比叡山、横川墓地、済生会滋賀県病院を見学させていただきました。どちらの施設も初めて訪問させていただいたもので、やはり、実際に、現地へ行ってみないと知ることのできない、様々な学びを得ることができました。

まず、比叡山に初めて登ってみて、尾根から琵琶湖と京都の、両方の景色が一望できることに感動を覚えました。さらに、延暦寺の方も、今日まで保存された仏教建築および美術の数々が一般開放されており、それらを通して荘厳な気持ちを抱くことができ、あるいは、阿弥陀堂では、ほぼ直角の段を登り降りする、といったエキサイティングな体験も楽しめました。

続く横川墓地では、解剖実習後の法要の流れを予行的に、現地を見て回ることができ、また、納骨堂の中に入らせて頂いたり、周りを掃き清めさせていただくことで、御遺体を我々にお預けくださる故人および御遺族に対する感謝の念を感じることができました。

最後に、済生会滋賀県病院では、救急などの院内の見学、および、塩見先生と馬場先生による救急と病理検査の紹介がありました。大きな病院を見学させていただくのは初めてだったので、実感が湧くと同時に、救急や病理検査の現状について、先生方のお話をお伺いすることで、それらの重要性を認識することができました。

施設見学以外でも、引率してくださった先生方や、学内外の諸先輩方との交流の、いい機会になりました。今回の一連の経験を契機に、今後の学生生活をさらに充実させていこうと思います。

最後に、今回の研修をお世話くださった先生方、学生課の方々には厚く御礼申し上げます。有難うございました。

滋賀医科大学　看護学科２年生　奥 山　詩 雨

比叡の歴史が染み込む美しい石畳を歩き、待ち遠しい春の訪れを心地良く感じられた２日間の研修でした。

しゃくなげ会にはご縁があり、祖父母も献体の登録をさせていただいております。今回は看護学生として延暦寺に奉られた多くの皆様の御霊のもとに足を運ぶことができ大変感謝しております。地元滋賀・地域の皆様からの大きな期待感とご支援を頂戴し、日々の学生生活を色濃く過ごさせていただいていることを深く認識することができました。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学　医学科３年生　門間　美里

私は今回で３回目の参加になります。２日目だけの参加でしたが、非常に充実した一日を過ごすことができました。最も印象深かったのは済生会滋賀県病院の無料低額診療事業です。ただ医療を行うだけでなく、地域の人々の生活全体への支援まで考えていく医師になりたいと強く思いました。最初の研修旅行では滋賀県の保健医療圏など分からないことだらけだったのですが、参加回数を重ねるごとに滋賀県が抱える地域ごとの問題点、病院ごとの医療連携など、滋賀県の医療体制が理解できるようになりました。また里親の宿泊研修を通して、滋賀の医療を身近に感じるとともに、将来、滋賀のどの病院で働きたいかなど、これらの自身のキャリアを想像できるようになりました。今後もこの宿泊研修に参加して滋賀愛を深めていきたいと思います。

滋賀医科大学　医学科２年生　杉本　裕子

気づけば２年生ももう終わり、ということで将来のキャリアパスについて悩み始めたところにこの研修のお知らせを頂き、今回初めて参加させて頂きました。

研修では医療施設見学はもちろんのこと、比叡山や滋賀院門跡など、滋賀の古き良き名所も巡ることができ、滋賀の大学に通っていながら今まではあまり意識したことのなかった滋賀の歴史というものに触れることができました。と同時に、坂本民主診療所や高齢者施設を見学させて頂いたことで、2025年問題が近づいているという事実に直面し、これから社会に出ていく立場の私達が、きちんと地域包括ケアシステムの確立について熟考していかなければならないと考えています。

そして何より、がん患者からのサバイバーとしてお話して下さった菊井様からは、がんを宣告されたときの赤裸々な感情や、不安を抱える患者側が医師に何を求めるのか、などこれから医療従事者になる私達にとっては医学知識以上に大切なことを教えて頂き、私自身身内を最近がんで亡くした立場としても胸に迫るものがありました。何年たっても、自分が医師を志す理由、その初心を決して忘れてはならないのだ、と改めて感じました。

多種多様な方々からのお話を伺うことができたり、様々な地を訪れたり、美味しいお料理を頂いたり…本当に盛りだくさんで充実した２日間でした。今回の研修に携わって下さったすべての方々へ、貴重な経験をさせて頂いたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

滋賀医科大学　医学科３年生　杉山　綾

「滋賀県の医療って、どんな感じなのだろう」とふと思い、今回の研修に参加しました。研修では、行政や病院･地域医療で働かれている方､がんのサバイバーの方など、いつもは会えないいろんな人のお話を聞くことが出来ました。初めての参加で緊張することもしばしばでしたが、退院後の患者さんのこと、地域のことにも少し詳しくなれた気がしました。観光と合わせた楽しい研修、ありがとうございました。

滋賀医科大学　医学科１年生　牧野　愛

宿泊研修で訪問した病院の中で、私は坂本民主診療所の机の形に興味を持ちました。その机はＬ字型になっていて、Ｌ字型の角のところにパソコンをおき、Ｌという字の短い棒の部分を挟んで、患者さんと医師が向かい合って座ります。この机を使用することで、医師がパソコンばかり見て、患者さんの方を見ないという問題に対処しています。交流会、講義、家族との会話の中で、このような医師の行動が気になったということはよく聞くので、この机の形に納得しました。

また、宿泊研修を通して滋賀県についてより知識を深めることができました。

滋賀医科大学　医学科３年生　髙塚　淑子

今回で５回目の参加になります。

毎回その地域の医療状況の説明や病院および医療福祉施設などの見学だけでなく、名所旧跡の見学もさせていただけるので、回を重ねるごとに、大阪出身の私も滋賀がとても身近に感じられるようになってきたと思います。

今回訪問した坂本はとてもしっとりした風情のある町で、宿泊した施設からの琵琶湖の眺めもとても美しく、住んでみたいと思いました。

また交流会では滋賀県がん患者団体連絡協議会の会長や会員のかたから、体験や医師に対する要望など貴重なお話をお聞きすることができました。専門の授業が進み、医師に近づくと学生の患者に対する共感が低下するという調査がありますが、そのようにならないために、このような機会はとても大切だと思います。

研修にご協力くださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

坂本民主診療所にて▶

宿泊研修に参加して(学生の声)

自治医科大学　医学科４年生　八坂　寛之

大津・湖南地域は県内で最も人口と医療機関が集中している地域です。今回はこのような都市的な環境における地域医療の現状や課題について学ぶ非常によい機会になったと思います。

坂本民主診療所では、人口構造の推移や全国における滋賀県の位置づけを踏まえた巨視的な視点から在宅医療の現状を教えていただき、大変勉強になりました。滋賀県は在宅療養支援診療所の数が少ないこと、在宅看取りが訪問看護利用率と相関することなど、具体的なデータを示して説明して下さり、非常にわかりやすかったです。診療所の設立当初から地域と二人三脚で地域医療に取り組み、時代とともに変化する医療・福祉のニーズに対応してこられたことはとても意義深いことだと思いました。また、地域に根差しながら最新の医療を学ぶ努力を怠らない姿勢にも感銘を受けました。将来地域医療に携わる自治医大の学生としては、一つのお手本を見せていただいたような気がします。

我々自治医大生も大学病院で実習していると、先進医療から離れ地域医療に従事する義務年限をネガティブに感じられることが多々あります。この宿泊研修で、地域医療の重要性や魅力を再確認することができ、改めて広く医療を学ぶモチベーションを高めることができました。

ありがとうございました。

滋賀医科大学　医学科３年生　久保田 浩之

今回の宿泊研修では、滋賀医科大学のある大津市、草津市からなる地域をまわりました。１日目は、まず滋賀県庁で医系技官の方のお話を聴き、県庁の医療福祉関係のお仕事の概要を説明していただきました。県庁にも、生活保護や生活困窮者支援関連の仕事が多かったのが意外でした。県庁を辞して、次は坂本へ移動しました。坂本では、滋賀院門跡と、坂本民主診療所を見学させていただきました。滋賀院門跡は、門跡寺院ならではの貴重な文化財と庭園を見学することができました。坂本民主診療所では、地域の介護、医療ニーズに応える形で発展してきた診療所を見学できました。

２日目は、朝から比叡山延暦寺と、横川の慰霊塔を訪れました。根本中堂は、僧侶が座る席が周囲より落ち込んだ珍しい造りをしていて、ここに僧侶達の読経の声が響いたらさぞかし荘厳であろうと想像しました。横川の慰霊塔は、昨年の５月以来でしたが、ご献体いただいた方に久しぶりにご挨拶できた気がして、気持ちが引き締まりました。

最後に、栗東市の済生会滋賀県病院を見学させていただきました。救急外来施設の広さに驚きました。

今回の宿泊研修でも、地域の特色を知ることができ、滋賀県の持つ奥深さを感じることができました。

滋賀医科大学　医学科２年生　松本　竜司

診療所・病院見学は将来の進路を考える上で非常にいい機会を与えていただいたと思います。将来、地域医療に携わりたいと思っている私にとって、初日の坂本民主診療所は理想的な地域医療のひとつの形のように思えました。地域の住民と話し合いながら地域医療を築き上げてきた話に感銘を受けました。また、二日目の済生会滋賀県病院で救急科の話を聞くことができ、それまで救急医療に携わることを全く考えておりませんでしたが、医の原点と言われる救急医療において幅広い疾患の急患に迅速に処置するという仕事に魅力を感じ、医者として目の前の様々な患者に対応できる術を身につけたいと思い、専門のひとつとして救急も学びたいと強く感じました。

今回初めての参加でしたが、前述の病院見学だけでなく、患者の声を聞けたり、他の学生との交流ができたり、これまで行ったことない滋賀の観光地にも行くことができたりと非常に満足の行く宿泊研修でした。また次回も必ず参加しようと思えました。

自治医科大学　医学科４年生　兒玉　征也

今回で６回目となる宿泊研修ですが、私は初めて参加させて頂きました。

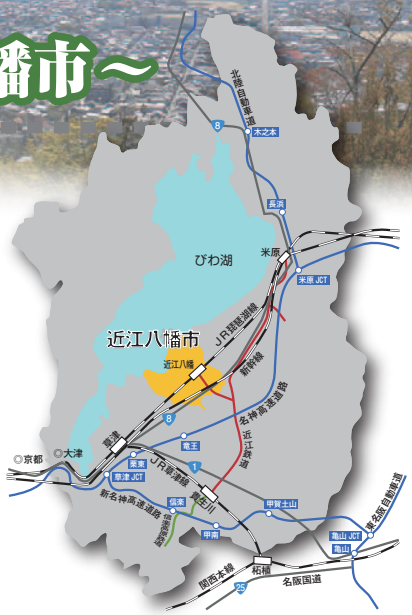
研修では比叡山を中心に回り、滋賀での研修先の候補となるような病院も見学させて頂きました。

滋賀県に住んでいてもなかなか行くことのない観光名所を体験することができ、さらに滋賀県の良さを知れた気がします。また、普段交流する機会の少ない滋賀医大の学生方とお話させてもらう機会もあり、お互いの大学の様子を聞くことができ、楽しめました。次回からも機会があれば是非参加したいと思います。有難うございました。

▲比叡山、滋賀医科大学 霊安墓地での清掃の様子

地域自慢 4

～歴史ある美しい町並み　近江八幡市～



近江八幡市は滋賀県のほぼ中央に位置し、平成22年3月に（旧）近江八幡市と蒲生郡安土町が合併して現在の近江八幡市は成立しました。近江八幡市には、琵琶湖で最大の島である沖島と滋賀県で一番大きい内湖である西の湖があります。沖島は淡水湖の島に人が住む世界的にも珍しい島として注目されていますし、西の湖はヨシの群生地である水郷地帯であり、「近江八幡の水郷」としても重要文化的景観の第1号に選定されています。

私の住む旧近江八幡市の市街地は八幡（はちまん）と地元で呼ばれ、豊臣秀次が築いた城下町を基礎に、各町が碁盤の目状に配置され「畳屋町」「鉄砲町」「魚屋町」等々、近江商人の発祥の地らしく、わかりやすく親しみやすい町名が付けられています。市内の資料館にある江戸時代（元禄期）の近江八幡の町並みが描かれた総絵図を見ると、ほぼ現在と同じであることがわかります。昔の風情が残る新町通り、永原町通り、八幡堀沿いの町並みおよび日牟禮八幡宮境内地は「近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区」として保存されており、時代劇の撮影場所としてもよく使われています。この影響があってか近年は旧市街地の町並みを観に来られる観光客が年々増加し、空き町家を活用したいという声が増えてきました。町家をリフォームしてお洒落なカフェがオープンしたり、元豪商の蔵で芸術の個展や、大きな庭に面した和室で寄席、音楽会が開かれたりと、旧市街に住んでいる者でも知らない町家のすばらしい空間を楽しむことができます。

▲現在残る町並みは、ほぼ江戸時代とかわらない

しかし、旧市街地における人口の減少や少子高齢化の進行などにより空き町家が増えているのも事実で、防犯、防災力の低下など歴史ある美しい町並みが損なわれるのではと心配されています。

▲近江商人の町並みが残る旧市街地

少子高齢で日頃は静かな旧市街地の八幡ですが、毎年３月中旬に開催される左義長祭りの２日間は活気にあふれます。近江八幡の火祭りとして国の無形民俗文化財に選択されており、安土桃山時代の織田信長自身も異粧華美な姿で躍り出たと「信長公記」に記されています。左義長の中心に据え付ける「だし」はその年の干支（えと）にちなんだものを海の幸（海産物）や山の幸（穀物等）で作成することになっており、だしコンクールの優勝を目指して各町内の趣向を凝らした正に芸術作品が作成されます。この「だし」作成の他、松明作成、飾りつけなど、各町内で、子ども会、老人会と幅広い年齢層の者が１月中旬から当日までの約２ヶ月間、毎日、毎晩準備作業にとりかかります。大変な準備作業で時間をかけて作成された左義長を２日間で点火して奉納するなんてもったいないと思いますが、八幡に住む人の心意気が感じられます。

また、長い準備作業の間、各町内の自治会館では子供から老人まで世代を超えた交流が生まれ、つながりがもてるのも左義長祭りの良いところです。

近江商人の「三方よし」の精神で表現すると、「住んでよし・人の交流よし・訪れてよし」の近江八幡に生まれ住んでいられることを幸せと感じています。

▲「だし」の馬の毛は春雨で作られている

文：滋賀医科大学学生課入試室
／近江八幡市東畳屋町 在住
辻　　信造

独立行政法人国立病院機構　東近江総合医療センター

臨床研修病院として

当院は、平成25年４月に新病棟（写真）を竣工し、320床を有する地域の中核病院と生まれ変わり、診療科・診療設備とも充実いたしました。同時に、当院は滋賀医科大学の第二教育病院としての使命があり、総合内科学講座・総合外科学講座を中心として医学生・研修医の教育もますます充実させています。平成26年４月からは基幹型臨床研修病院として指導医・研修設備も整い、特にスキルスラボでのシミュレーション研修の実施や、研修医１人１人に宿泊もできる個室を用意するなど、研修に集中できる環境となっています。すでに以前から常時６名の医学生が交替で臨床実習に来ていますし、初期臨床研修医もローテーションで受け入れています。志をもった若い医師が多く集まる病院をめざしています。

院長：井上　修平

平成25年4月に竣工した新病棟

診療科目： 総合内科、糖尿病･内分泌内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科

各種学会認定施設：
- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本神経学会准教育施設
- 日本てんかん学会てんかん専門医制度研修施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
- 日本消化器病学会認定関連施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会関連施設
- 呼吸器外科専門医制度基幹施設
- 日本胸部外科学会指定施設
- 日本麻酔科学会認定病院
- 日本眼科学会専門医研修施設
- 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- 日本病理学会研修登録施設
- 日本口腔外科学会認定関連研修施設

「研修環境と研修プログラム」

今日わが国では、高齢化社会と少子化の中で疾病構造の変化や国民のニーズの多様化・高度化などにより、医療に大きな変革が求められています。そこで、このような医療環境の変化に対応できる医師を養成することが重要です。専門分化し臓器中心の医療の傾向の中にあって、医師と患者さんのコミュニケーションと全人的な幅広い診療がややすると欠如する医療を原点に振り返って、研修という視点より見直し、すなわち、プライマリ・ケアをはじめとして、少子高齢化社会の多様な医療ニーズにも対応できる幅広い診療能力を身につけるとともに、患者さんと全人的な関係が構築できる医師としての人格を涵養する研修を目的としています。

年間スケジュールの一例

一年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内　科						外　科			麻酔科		救急
二年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	地域医療	小児科		産婦人科		精神科	選択科		選択科		選択科	

スキルスラボ室

研修医個室(17室)

研修医談話室

研修医メッセージ

滋賀医科大学附属病院消化器内科　村 田　雅 樹

皆さん、はじめまして。滋賀医科大学附属病院　消化器内科の村田雅樹と申します。わたしは研修医時代、医大を基幹として研修をしておりましたが、市中病院の医療も肌で感じたいと考え、数ヶ月ではありましたが東近江総合医療センターで総合外科および総合内科にて派遣の形で研修をさせていただきました。東近江総合医療センターでの研修は３つのポイントからとても魅力的でした。

①common diseaseを中心とした疾患を見ることができたこと。心不全や肺炎、脳梗塞、CPAの救急搬送など医師として診ておかなければならない疾患を数多く診ることができました。内科医として一般外来や救急外来を診るようになった現在も、この経験は内科医の根幹として体に刻まれています。

②総合内科では朝に医師が全員揃ってカンファレンスが行われます。そこに揃われている諸先生方は私が学生の頃に講義をしていただいていた先生方。いずれの先生方も知識・経験とも豊富で、症例に苦慮した際にも適切な助言をいただきました。そして、時には医師同士として熱くカンファレンスを行うこともありました。

③そして、医師が医師として仕事していくためにはその仕事を支えてくれる看護師はじめコメディカルの存在が絶対に欠かせません。東近江総合医療センターの方たちは患者様に対する対応や医療に対する姿勢、そして職場としての雰囲気がとても良く、医師として行いたい医療ができる環境が整っていました。東近江総合医療センターが成長してきた大きな原動力になったのではないかと感じました。

国立滋賀病院時代から、大きく進化を遂げた東近江総合医療センターへ。私が今こうして消化器内科医として働く上での礎になった場所であります。この場をお借りして、お世話になった諸先生方、コメディカルの方々に御礼申し上げます。

看護部メッセージ

新しい生命（いのち）が生まれる瞬間（とき）に感動を!!

みなさん、はじめまして！　東近江総合医療センター南３階病棟は産婦人科と歯科口腔外科、眼科、皮膚科の男女混合病棟です。病棟内でゾーンニングを行い、産科のみのエリアを設けて、母子同室制をとっています。

産婦さんは、夫や家族と一緒に陣痛を乗り越えながら家族の温かさに支えられご出産されます。生まれてきた児は祝福の中で元気にうぶ声を上げます。安全・安心な分娩をサポートする私達スタッフは、元気なうぶ声を聴いた瞬間に安堵し新しい生命の誕生を産婦さんや家族の方と一緒になって喜びます。たとえ、大変な分娩であっても、産婦さん自身がよく頑張ったと満足感のある出産ができたと思えるようにサポートしています。

英国の小児科医精神分析家であったウィニコットはその著者「赤ん坊と母親」で、親子の最初の関係性は「気持ちのよいお産に続く母と子の自然な授受乳であり、このことが母子関係に基本的に良い形を作り、これがうまくゆくことが子どもの一生に非常に重要である」と言っています。

分娩直後の貴重な時間に関わり、親子の絆形成の重要なケアを任されていることを認識しながら、私たちはケアを行っています。

是非、温かな環境の中での分娩と、それに続く愛着形成へのケアを通して感動と感激を感じて下さい。

平成23年６月より分娩を開始し、今年度で３年目です。平成25年度の分娩件数172件、平成26年度の分娩予約も増えてきています。

独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター

所在地：〒527-8505　滋賀県東近江市五智町255番地
電　話：0748-22-3030
ＦＡＸ：0748-23-3383
ＵＲＬ：http://www.shiga-hosp.jp
ｍａｉｌ：402sy01@hosp.go.jp

一般社団法人　水口病院

水口病院 病院正面

病院の概要

院　　長：青 木 治 亮
設　　立：明治41年（1908年）１月18日
病 床 数：407床
診療科目：精神科、老年精神科、心療内科、内科
そ の 他：訪問看護、認知症疾患医療センター、精神科デイケア
指定施設：精神科臨床研修指定病院、日本精神神経学会　認定施設、日本老年精神医学会　認定施設、
日本医療機能評価機構認定病院（Ver6.0）
理　　念：病める人にやすらぎと生きる力を
方　　針：安全で質の高い医療を提供する
患者様のニーズに沿った
快適な環境を提供する
地域に開かれた医療、
福祉サービスを実践する

関連施設：
- 介護老人保健施設　スキナヴィラ水口（100床）
- 特別養護老人ホーム　兆生園　（55床）
- 地域生活支援センターしろやま
- 生活訓練事業所しろやまコミュニティハウス(援護寮20床)
- 水口クリニック（草津市）

水口病院のネットワーク

水口病院では、甲賀湖南地域の精神科医療の中核病院として、入院治療、外来診療業務および院外関連施設の診察業務を日々行っています。

院長メッセージ

水口病院　院長　青 木　治 亮

小説「坂之上の雲」の舞台として描かれている頃に私たちの病院は開設されました。明治という時代のなかで精神科医療においても黎明の時代だったようです。そのため病院の形態を成す以前から路上生活者や「難病者」（現在の精神障がい者）を引き取り、お茶などを栽培しながら共同生活をしていたと記録されています。ちょうど作業所付きのグループホームのようなものでしょうか。また、数年前に改築工事を行った際、数体のお地蔵さんが出てきました。当時、治療代が払えない家族さんが代わりに置いていかれたとのことでした。診療報酬改定で１点２点の鍔迫り合いをしている今と比べると何とも長閑さを感じるものです。
以来、100年余の時間と、共に様々なエピソードを積み重ね今に至っています。そして、この先100年も私たちは地域の皆さんと共に歩み続けて参ります。

福島こころのケアチームの活動

デイケアテラス

医局長メッセージ

水口病院　医局長　池田　幸司

私は滋賀県出身、滋賀医科大学出身ということもあり、できれば将来はこの地で働きたいという希望がありました。ただ、学生時代の私は医学部に入ったものの、救急医療のテレビドラマを見て「あれはかっこいいなあ」とぼんやり思いながら過ごしていました。引っ込み思案の私は、滋賀県の医療の状況について色々知りたいけれど、「どのようにアクセスしたらよいのか」、「学生を相手してくれるのか」などと考えていました。私が大学を卒業してから発足された滋賀医療人育成協力機構については、広報誌を通して毎号活動を拝見していました。滋賀県の医療機関を見る機会が多くあり、今の医学生、看護学生の皆さんを非常に羨ましく感じます。

さて、水口病院のPRをしないと。甲賀市にある精神科単科病院なのですが、なかなか精神科については偏見があるのは確かで、実際どんなふうなのかわからない学生の皆さんも多いのではないでしょうか。実際のところは、見学や実習で見に来ていただけたら、と思います。興味のある方は、当院のホームページに「見学・体験案内」の問い合わせフォームがあります。お待ちしています。

看護部長メッセージ

水口病院　看護部長　福井　伸彦

目の前にいる患者さんが『今、何について困っているのか？』『何を求めているのか？』そう考えることから精神看護は始まります。一般科のようにデータや画像ではわからない患者さんの言動を観察し病態を感じることに難しさややりがいがあり、日常業務の中での患者さんとの何気ない会話や一緒にする作業にこそ精神看護はあると思います。

水口病院では言葉や研修会ではなかなか伝えられない精神看護について、心で感じる看護に特化した新人教育が行えるように毎年試行錯誤しながら新人教育プログラムを計画しています。また看護部が中心となり多職種参加型の研修会を開催しています。この研修会では全員が受け手であり、送り手の役もこなす事を目的に、一人ひとりがそれぞれ学習してきたことをプレゼンし伝えることの難しさも学んでいます。

水口病院は100年以上精神科医療に携わってきた歴史もありますが、若い職員でも活躍できる風土が根付いています。ぜひ一度お気軽に病院見学にお越し下さい！

所在地：〒528-0031滋賀県甲賀市水口町本町2-2-43
TEL：0748-62-1212／FAX：0748-62-1215
URL：http://www.minakuchi-hp.or.jp
ブログ：『ラルフのつれづれ日記』

Interview

済生会滋賀県病院　臨床検査・病理診断センター
センター長　**馬 場　正 道**
（滋賀医科大学医学部医学科12期生）

〈大学卒業から今までの足跡〉

平成４年卒業後、初代教授の細田四郎先生が主宰されていた滋賀医科大学第２内科（現消化器・血液内科）に入局しました。当時、先生は、内科全般の基本を抑えつつ、それを土台として専門領域を積み上げていくという、所謂「T字型研修」を提唱されており、そのことと消化器疾患への興味が第２内科入局の決め手になったのかも知れません。第２内科の研修医時代には多数の先生のご指導をいただき、現在でもご活躍の先生も多数おられますが、特に、当時医局長をされていた藤山佳秀先生（第３代教授、現副学長）には大変お世話になりました。医者としてだけでなく、社会人としても未熟な自分に対し、厳しくも暖かいご指導をいただきました。

大学附属病院での２年間の研修の後、大学院へ進み、第１病理（現病理学講座分子診断病理部門）で研究することになりました。主宰されていた服部隆則先生は、42歳の時に第２代教授に就任されましたが、自分たち12期生が先生にとって滋賀医大で１年を通じて病理学を教えられる最初の学年であることもあり、同期全体が大変かわいがっていただいた記憶があります。最初の講義での、「僕は戦後生まれやから、君らの兄貴みたいなもんやと思てなんでも相談してくれ。」というお言葉は、先生のお人柄を象徴しているようで、今でも忘れられません。そんな先生の周りには、学生・大学院生・外部の病院で勤務されている先生など、たくさんの人材が集まってきました。特に、教室に多数の学生がたむろする風景は、この頃から現在にまで至る、第１病理の一つの風物詩といえるのではないでしょうか。

第１病理では、当時助教授の杉原洋行先生（現教授）、助手の九嶋亮治先生（現臨床検査医学講座教授）にご指導いただき、胃癌、特に杉原先生のライフワークの一つである印環細胞癌を用いた研究を手伝わせていただきました。それと同時に、病理解剖や病理診断の研鑽も積ませていただきました。病理診断については、公立甲賀病院・彦根市立病院・済生会滋賀県病院・草津総合病院等の関連病院へ週１～２回出張診断したり、検査会社が開業医の先生方から集めてくる標本を時間外に診断していました（ちなみに、検査会社からの委託診断による稼ぎはそのまま研究費となりました）。研究や病理の修行の他に、第２内科の大学院生としての外来や検査の出番と、亡くなった父親の開設した「北山田診療所」の開業（現在では弟 史道と妹 典子とで診療しています）もこなす毎日で、今から思い返せば我ながらよくやっていたなという感じです。

▲第1病理時代、4回生夏季基礎配属実習打ち上げ時のひとコマ。杉原先生も、九嶋先生もお若かった！

平成10年に学位をいただき、その後、第１病理の医員・助

手となりました。平成13年からは、約１年間、ドイツのミュンヘン工科大学病理学研究所へ留学させていただきました。当時、主任教授のHoefler先生は分子生物学を用いた腫瘍の研究でドイツ病理学会を牽引されており、特に胃未分化型癌と接着分子E-cadherinとの関係についての報告で名を上げておられました。当方も胃印環細胞癌を中心に研究していたこと、使ってみたい研究機器を所有されていること、個人的にドイツの音楽や歴史等に興味があったこと、それと、何よりもビールやワインがうまいこと（笑）などの理由で、留学先に選ばせていただきました。残念ながら、大した研究成果は得られませんでしたが、その代わりに、ドイツで生活することで得られたものは人生を生きていく上でかけがえのないものとなった様な気がします（詳しくは、済生会の病理に遊びに来ていただいた時にゆっくりお話ししましょう）。驚かされたこともたくさんありました。例えばドイツ人研究者の集中力。彼らは朝は少しは早くから仕事を始めますが、夕方５時に残っている人はほとんどないくらい切り上げは早く、ましてや土日曜日・祝日に研究所に出てくる人は数人の外国人留学生以外に誰もいません。更には、ドイツでは、多くの人が年間４～６週間の長期休暇を取ることが普通です（誰も彼も、休憩時間などに、次の休暇ではどこにいくかとか何をするかとかのネタで盛り上がることが多く、休暇のために働いている感すらありました）。にも拘らず、彼らは日本人研究者と同等かそれ以上の成果を上げ、多数の論文を作成しています。日本にいた時には、平日夜や土日曜日に仕事をするのも当たり前でしたので、彼らの生活スタイルは自分のを考え直す良いきっかけになりました（しかし、現在、諸事情で再び土日曜日にも仕事をするスタイルに戻ってしまいましたが）。

▲
ミュンヘン留学中、お世話になったHoefler先生ご夫妻、訪ねて来られた服部先生ご夫妻との会食時のひとコマ。

▲留学中、宿舎の近くにあったバイエルン州立歌劇場（ミュンヘン・オペラ）。当時、映画館より安い立見席があり、週末によく訪れました。

平成12 年から済生会滋賀県病院の常勤病理医になりました。途中、助手任官・ドイツ留学を経て、平成15年から済生会に復帰し、今日に至っています。現在は、病理診断科部長だけでなく、臨床検査と病理を束ねる「臨床検査・病理診断センター」のセンター長も兼ねており、検査の管理業という新しい仕事もさせてもらっています。病理医は自分の他に、昨年度からかつて京都第二日赤・第一日赤などで検査部長をされていた加藤元一先生を参与としてお迎えし、今年度から後期研修のために加藤寿一先生（加藤元一先生とは血縁関係はありません。たまたま名前が似ていたそうです）が来られ、総勢３名という布陣となりました。加藤元一先生は、第一日赤時代に常勤病理医を３名にされ、その後、研修医の先生が後期研修で回ってくるようになったそうで、「たくさんで楽しそうに仕事してたら、自然と人は集まってくるんだよ」とおっしゃいます。加藤寿一先生は滋賀県のご出身で、滋賀医大で前期研修を終えられましたが、将来は滋賀

▲桜の季節の済生会滋賀県病院正面。総病床数393の中核病院で、３次救急の拠点でもあります。

県で病理の仕事に携わることを希望されています。今後、済生会内部からも病理医希望の先生が現れることを願っています。

〈最後に、後輩の皆さんへ〉

今回いただいたお題は「臨床と基礎の架け橋」でしたが、臨床医からスタートし、大学の基礎病理に身を置き、現在は一般病院で病理診断（臨床病理）に携わっている自分を顧みれば、寧ろ「臨床と基礎を行ったり来たり」という感じでしょうか。しかし、人生何がどうなるか分かりません。例えば研究です。大学から一般病院に移り、もう研究などすることもないと思っていましたが、検査会社から病院への依頼で開業医の先生方から集めて来た標本の病理診断をすることになり、それによって病理診断科に相当の研究費が入り、日常業務の中で興味を持ったり疑問に思ったりしたことについて、自分に可能な範囲内で研究を再開することが出来るようになりました。勿論、大学などの大きな施設でシステマティックにやる様なレヴェルのものではありません（自身では「研究」と呼ぶのは烏滸がましいので、「趣味」といったりしています）が、国内の学会だけでなく海外の学会でも幾度も発表出来るようになり、本当にありがたいことだと思っています。

今回、卒業してから今までの足跡を書かせていただきましたが、おそらく感じていただいたとすれば、人との出会いが最も大事であるということではないでしょうか。そして、その出会いから将来の進路の大部分が決まってくるものと思われます。とすれば、学生時代から出来るだけ多くの人と出会い、学ぶべきです。教官・同級生だけでなく、大学内外の部活・バイト・旅などなど、チャンスは沢山あると思います。そのチャンスを生かし、より自分にあった方向性を見出すよう努力して下さい。でも、ひょっとしてうまく見つけられないのでは、と不安を感じる人もいるかも知れませんが、個人的には結構楽観的に考えており、あまり心配しなくてもいいのではないかと思っています。それなりの努力を心がけていれば、たとえ回り道することになったとしても、結果的にそれぞれ自分に合った道にたどり着き、その道を歩いているのではないでしょうか。

皆さんが、この滋賀県で伸び伸びと学生生活を過ごされ、卒業後は医療人としての輝かしい人生を堂々と歩んでいかれることを心から祈念しております。

▲済生会滋賀県病院で臨床検査科部長を兼任し始めた頃の写真。自分以外は全員臨床検査技師の方々です。

看護師の仕事の魅力

今私は４月に新しく編成された２Ｃ病棟で働いています。整形外科・消化器内科・救急・共通の混合病棟です。慣れない環境の中で、新しいスタッフとともに新鮮な気持ちで働いています。

日々の仕事は多岐にわたりますが、検温・医療処置・投薬・手術後の全身管理・セルフケア介助・離床援助など様々です。１人の看護師で複数の患者さんを担当するため、段取りよくその日の業務をこなさなくてはなりません。もちろん自分１人ではできないことも多く、他の看護師と助け合い、担当患者さんのことで悩んでいることがあればカンファレンスの場にかけて皆で話し合ったりします。その他医師・セラピスト・薬剤師・医療社会福祉士など様々な職種とも連携しながら患者さんをみていきます。

看護師は患者さんの命を預かる大変な仕事です。その分やりがいも大きいです。自分の持つ知識と技術を患者さんのためにフルに活かすことができますし、患者さんの心に寄り添って関係を築きあげていくことも魅力の１つです。病状が改善に向かう方ばかりではないため気持ちが落ち込む時もありますが、そんな時は「この人のために自分に今何が出来るのか？」を常に問うようにしています。看護師とは、自分の倫理観や人生観が大きく問われる仕事だと思います。

実際看護師として働き出すと、看護学生の時に座学も実技も実習ももっとしっかりやっておくんだった！と後悔します。でも遊んでおくことも大切です。どんな経験も無駄にはならず後々役に立ちます。学生の間にたくさん人生経験を積んでおき、将来どんな場面でも柔軟に対応できる懐の深い看護師になってもらいたいと思います。

文：**滋賀医科大学医学部附属病院２Ｃ病棟**
看護師　**岡 田 みのり**（里親）
（滋賀医科大学看護学科５期生）

訪問看護ステーションで働きたい看護学生をサポートします

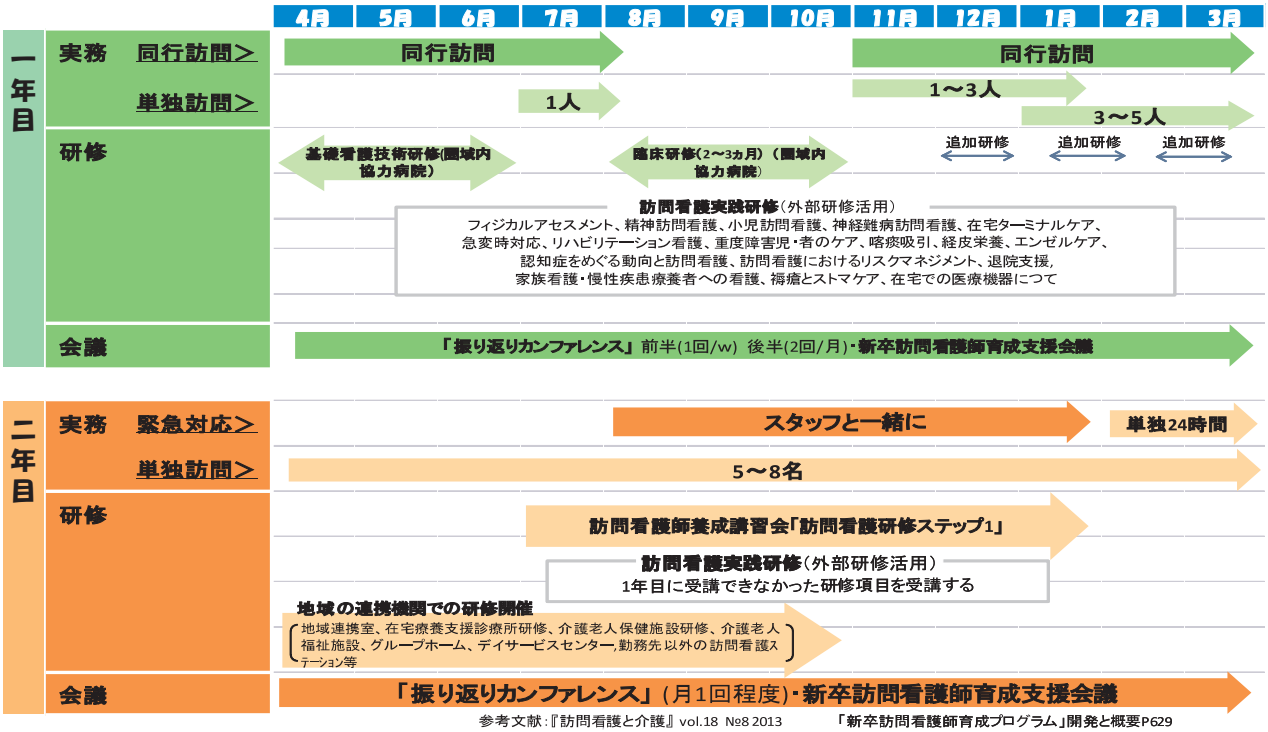
日本の看護界の常識では「訪問看護は一定期間の病棟経験を経てから」という状況でした。しかし、そうではない！「病棟経験がなくても訪問看護の現場で新卒ナースを育てよう」「生活支援の視点とケアができる看護師を育てよう」と、滋賀県看護協会では、滋賀県より委託を受け、平成25年度新人訪問看護師育成プログラム検討委員会を立ち上げ、この「新卒訪問看護師育成プログラム」の開発に至りました。また、訪問看護ステーションの受入れも可能となりました。

卒業後すぐに訪問看護ステーションで働きたいと思っている看護学生の方を対象に就職支援と、就職後の育成プログラムを活用し、訪問看護師の育成支援を行います。

「新卒訪問看護師育成プログラム」って??

＊新卒訪問看護師の指導は、訪問看護認定看護師または、ベテランの訪問看護師が行います。
＊本プログラムは1年目の入職初期より先輩訪問看護師と「同行訪問」をして、「訪問看護師としての基本姿勢」「コミュニケーション」を直に学ぶことができます。
＊「同行訪問」から学ぶことが基本。新卒者でも安心して、先輩訪問看護師が繰り返し丁寧に指導します。
＊病院勤務の新卒看護職員と同じ新人看護職員研修（集合研修）が、勤務地の圏域内協力病院にて、受けられます。

新卒訪問看護師育成プログラムのカリキュラム概要



参考文献：『訪問看護と介護』vol.18 №8 2013　「新卒訪問看護師育成プログラム」開発と概要P629

NPOみなくち訪問看護ステーションでは・・・・

現在は訪問看護師19名、理学療法士３名、作業療法士１名が連携を図りながら甲賀市に２ヵ所のサテライトを持ち、訪問にあたっています。

平成25年４月から滋賀県看護協会より委託を受け、モデル事業に取り組んでいます。これは、各圏域で核となる基幹型訪問看護ステーションを設置し、その地域の訪問看護の充実と教育体制を強化しようという取り組みです。25年度は、夜間早朝を含めた24時間計画訪問のシステム作りに向けた事業を行いました。

これは基幹型訪問看護ステーションが中心となり、その地域の夜間訪問看護が必要な利用者へ訪問するという形です。日中は基幹型以外の訪問看護ステーションが訪問しますが夜間は基幹型訪問看護ステーションが訪問します。小規模のステーションだけでは夜間の訪問を担うのは困難です。そこで大規模ステーションが夜間訪問可能な体制と人員を確保し、地域全体の夜間訪問を充実させるシステム作りをパイロット的にNPOみなくち訪問看護ステーションでは10月～３月の夜間訪問を実施しました。夜間訪問看護を利用された利用者・家族の方からは「介護負担が軽減した。」「看護師が毎晩訪問してくれるので安心だった。」等の意見が聞かれ、夜間訪問の必要性が明らかとなりました。そのニーズに応えるためには、訪問看護師の不足や訪問看護に関係する制度上の問題、夜間訪問に発生する利用料等の問題など解決すべき問題は多く、これは地域包括ケアシステムを構築していくうえでの課題のひとつであることが確認できました。

もう一つの「新卒者訪問看護師育成教育プログラム」事業については、プログラムの作成を終え、次年度以降、実際に新卒看護師を雇用し育てていく段階に入ります。これまで、訪問看護師には臨床経験が必要といわれてきました。現在では千葉県看護協会等では、新卒訪問看護師の教育を行っています。滋賀県でも教育が可能となりました。指導に当たる指導訪問看護師の研修も行っていく予定です。新卒看護師のみなさん、在宅看護に興味を持たれた方は是非とも訪問看護ステーションに来てください。病院での研修も組み込みながら１対１の支援を行う予定です。新卒看護師を育てることで訪問看護師不足や訪問看護の活性化へつながるよう、進めていきたいと思います。

NPOみなくち訪問看護ステーションは、地域での訪問看護の役割を果たしていけるよう、今後も活動して参りたいと思います。

NPOみなくち訪問看護ステーション・信楽サテライトスタッフ

NPOみなくち鹿深訪問看護ステーションスタッフ

訪問看護についてのお問い合せは

公益社団 **滋賀県看護協会**
☎：077-564-9494
E-mail：sigakan@gold.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.shiga-kango.jp

文：NPOみなくち訪問看護ステーション
統括所長・訪問看護認定看護師
駒井　和子

医学生・看護学生のみなさんへ

滋賀県内の病院から寄せられた実習情報・病院見学・インターンシップなどの開催情報です。ぜひご活用ください。

ホームページhttp://www.shiga-iryo-ikusei.jp/gakusei/index.htmでも最新情報をご確認いただけます。

◆医学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名	対象者 学年等	実施内容	日　程 開催期間	申込時期	連絡先
一般社団法人　水口病院		http://www.minakuchi-hp.or.jp/			
	全学年	病院及び関連施設見学（希望の見学場所があれば対応します。）	応相談 随時	随時受付･随時実施	事務長　﨑山明生
大津市民病院		http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/			
	第４、５学年	「サマースチューデントコース」と題し、研修医のエスコートのもとに病院研修を体験してもらいます。	開催期間中の各週１名、計4名定員。研修日数は1~5日とし、複数の週にまたがらないこと。 平成26年8月4日 ~8月29日	ＨＰ参照	病院総務課 臨床研修担当 077-526-8516（直通）
甲賀市立信楽中央病院		http://www.city.koka.lg.jp/sch/			
	全学年	診療見学・出張診療・訪問診療	6月～11月 随時	随時	院長　中島恭二 0748-82-0249
近江八幡市立総合医療センター		http://www.kenkou1.com/			
	第４学年～ 第６学年	病院見学 （各診療科見学等）	応相談 随時	随時	総務課　吉田 0748-33-3151
長浜赤十字病院		http://www.nagahama.jrc.or.jp/			
	全学年	病院見学 ＊特にコースは定めていない。希望の見学場所があれば、できる限り対応。	１日～１週間程度 随時	随時	総務課 0749-63-2111 resident@nagahama.jrc.or.jp
大津赤十字病院		http://www.otsu.jrc.or.jp/index.html			
	主として 第５、６学年	診療科見学。1日1診療科で受付。 ＊夏季に病院説明会開催、レジナビ（大阪）参加予定。	随時	随時	総務課 吉川、人事課 中江 077-522-4131㈹ jinji4@otsu.jrc.or.jp
びわこ学園医療福祉センター草津		http://www.biwakogakuen.or.jp/			
	全学年	障害児者医療の実習・見学 （病棟・外来・地域支援など）	１日～１週間程度 随時	随時	口分田政夫 077-566-0701
彦根市立病院		http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/			
	全学年	診療科見学、施設見学等	随時（平日）	随時	職員課 0749-22-6050
滋賀県立成人病センター		http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/			
	全学年	病院見学	随時	随時	総務管理課 077-582-8033（直通） nb01105@pref.shiga.lg.jp

病院名・機関名	対象者 学年等	実施内容	日　程 開催期間	申込時期	連絡先
済生会滋賀県病院			http://www.saiseikai-shiga.jp/		
	第５、６学年	希望科の外来診療、処置、手術等、ご要望をお伺いして調整いたします。また、当直や研修医のモーニングカンファレンスもご希望があれば見学いただけます。	見学につきましては、随時受け付けております。	見学希望日の概ね２週間前	総務課 臨床研修担当　小林 077-552-1221 soumu@saiseikai-shiga.jp
長浜市立湖北病院			http://www.ikbk.jp/		
	全学年	病院見学 （各診療科見学、院内案内等）	４月～11月 随時	随時	管理課 0749-82-6143（直通）
滋賀県立精神医療センター			http://www.med.shiga-pref.jp/pmc/		
	第６学年	１回につき学生１人。精神科医の診療に３日間ずっとついてもらいます。その間に協議も実施。	随時、相談 3日間連続を年3回程度（計3人）	随時	柴﨑（診療局長） 077-567-5001 shibasaki-morikazu@pref.shiga.lg.jp
医療法人社団　弓削メディカルクリニック　滋賀家庭医療学センター			http://yugemed.com/		
	全学年	外来・在宅医療・通所リハビリテーション他	平日 随時	随時	雨森正記 (FAX)0748-57-1130
市立長浜病院			http://www.biwa.ne.jp/~nch/index.html		
	全学年	病院見学（各診療科見学、救急外来見学、院内案内等）	応相談 （半日～１週間程度）	随時受付・随時実施	総務課 0749-68-2324

◆看護学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名	対象者 学年等	実施内容	日　程 開催期間	申込時期	連絡先
一般社団法人　水口病院			http://www.minakuchi-hp.or.jp/		
	全学年	病院及び関連施設見学（希望の見学場所があれば対応します。）	応相談 随時	随時受付・随時実施	看護部長　福井伸彦
大津市民病院			http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/		
	全学年	病院看護局紹介、希望部署見学、先輩看護師の話など	平成26年7月22日～8月8日 13:30～16:30	随時	看護局　教育担当 077-522-4607 （内線 6140）
近江八幡市立総合医療センター			http://www.kenkou1.com/		
	2015年４月に助産師・看護師として就職希望者	病院見学・インターンシップ	随時（応相談） ホームページにて案内	随時	総務課　吉田 0748-33-3151
長浜赤十字病院			http://www.nagahama.jrc.or.jp/		
	全学年	インターンシップ（希望の部署で個別に合わせたプログラム）	春休み・夏休みに開催予定 1～３日程度	希望日の前月15日まで	看護部 0749-63-2111 nurse@nagahama.jrc.or.jp
		病院見学	年２回程度		

病院名・機関名	対象者 学年等	実施内容	日　程 開催期間	申込時期	連絡先
大津赤十字病院			http://www.otsu.jrc.or.jp/index.html		
	全学年	見学会／先輩看護師と語ろう、院内見学、待遇や概要について インターンシップ／希望部署への看護体験	見学会/平成26年3月~8月中に５回実施 インターンシップ/随時開催あり	随時（ホームページで確認して下さい）	人事課 077-522-8410（直通）
びわこ学園医療福祉センター草津			http://www.biwakogakuen.or.jp/		
	全学年	障害児者医療の実習・見学 （病棟・外来・地域支援など）	1日～1週間程度 随時	随時	逸見聡子 077-566-0707
彦根市立病院			http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/		
	全学年	病院看護部紹介、施設見学、新人教育紹介	随時（平日）	随時	看護部 0749-22-6050
滋賀県立成人病センター			http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/		
	大学４回生、専門学校３年生	インターンシップ 病院見学	平成26年7月下旬~8月（土日祝を除く）	平成26年6月頃	看護部　横井正子 077-582-5031 nb01103@pref.shiga.lg.jp
済生会滋賀県病院			http://www.saiseikai-shiga.jp/		
	全学年	①病院見学、　募集要綱説明 ②インターンシップ（希望の部署での看護体験） 先輩看護師との昼食会	①随時 ②３月、６月	※開催日時については、病院ホームページに随時掲載します	看護部　事務　尾関 077-552-1221 kango@saiseikai-shiga.jp
長浜市立湖北病院			http://www.ikbk.jp/		
	全学年	病院見学 （看護局紹介、施設見学等）	随時 通年	随時	管理課 0749-82-6143（直通）
湖東記念病院			http://www.koto-hp.jp/		
	全学年	病院見学（看護部紹介、施設見学）	通年 随時	随時	看護部 0749-45-5000㈹
滋賀県立精神医療センター			http://www.med.shiga-pref.jp/pmc/		
	①全学年 ②２～４学年 ③３～４学年	①病院見学 ②就職説明会 ③インターンシップ	①随時 ②６月28日 ③7~9月末	①随時 ②前日まで ③随時	白崎（看護部副部長） 077-567-5001
市立長浜病院			http://www.biwa.ne.jp/~nch/index.html		
	全学年	インターンシップ 病棟見学実習、 介護技術見学、 先輩看護師との座談会	平成26年7月28日㈪~8月22日㈮ ＊上記以外の日程にも対応		看護科長室 0749-68-2300 （内線2222）
		病院見学＆説明会 （看護師募集について、先輩看護師の話など）	平成26年6月28日・7月12日　9:00~	随時	
訪問看護ステーションゆげ			http://yugemed.com/		
	全学年	訪問看護・他在宅療養を支える様々なサービスについて	随時（平日の2~3日）	随時	雨森千恵美 （FAX）0748-57-1147

この春、滋賀医科大を卒業した医学生、看護学生の進路

滋賀医科大学里親学生支援室長
滋賀医療人育成協力機構理事
埜田　和史

はじめに

この春、滋賀医大から95人の医学生と68人の看護学生が社会に巣立ちました。医学生は最低でも６年間、看護学生は４年間大学で学び、大学や地域の病院、診療所で実習を重ね、それぞれ国家試験に合格して医師、看護師、保健師、助産師としての一歩を踏み出したのです。これから、医師は２年間の初期研修を終えた後に、専門とする科を選び３年間の後期研修を経て独り立ちして行きます。看護学科の卒業生たちも、それぞれの就職先で研修を重ね、成長していきます。今年の、卒業生たちが選んだ進路について紹介します。

滋賀県内で働き始めた卒業生は？

卒業生たちがどの地域で働き始めるのか、県民として気になるところです。医学科については43%が、看護学科については50%が県内でした。医学科について昨年の結果と比べると、昨年が33%でしたから、今年は県内で医師としてスタートする卒業生が増えました。

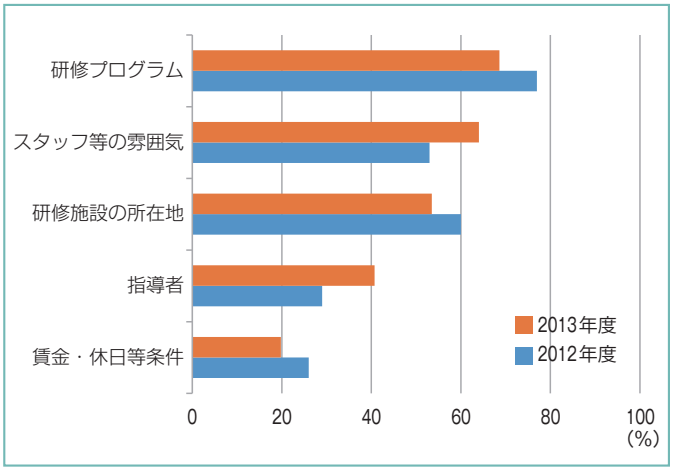
里親学生支援を受けた学生の動向は？

入学時から「里親」や「プチ里親」の支援を受けてきた「里子」学生で、この春卒業したのは医学科15人、看護学科９人でした。その動向は、医学科で67%、看護学科で22%が県内で第一歩を始めました。「里子学生」で滋賀県出身者は医学科で７%、看護学科で33%でした。医学科でみると、同じ滋賀県外の出身の学生でも「里子」か否かで、県内を卒後の進路に選ぶ率に３倍以上の差がありましたから、「里親学生支援」を通じて、滋賀県への関心が深まったのではないかと思われました。

医学生が進路を決めた理由

医学生がどんな理由で卒後の研修先を決めるのか、昨年に続いて機構で調査しました（グラフ）。上位５番目までの理由は昨年と同じでしたが、今年は「指導者」や「スタッフ等の雰囲気」の指摘率が上昇しており、県内の研修病院の指導者やスタッフの魅力が学生に伝わったのかな、と思われました。

卒後の研修先を決めた要因（上位５事項）



後期研修をどこで

医師の場合、後期研修先がその後の勤務地や診療科に結びつくため、滋賀の医師確保の観点から見ると、気になるところです。この点について、後期研修を「滋賀県内で行うつもり」の卒業生は30%で、昨年の27%とほぼ同じ比率でした。大学を卒業した医師に、初期研修、後期研修を通じて滋賀県内で学び続けることの魅力を伝える努力と工夫が求められているようです。

おわりに

医師や看護師・保健師・助産師としての長い職業人生から見れば、その第一歩が始まったところです。彼ら・彼女らの力が、いつか何処かで滋賀県民の生命や生活を支えてくれるでしょう。今後も、若い医療人の成長を応援していきたいと思います。

講演報告

「卒業後の自分を考える」連続自主講座（第1回、2回）を開催

学生さんの希望を募り、聴講するだけでなく共に考える講座を今年１月から始めました。

初回は、「女性医師から話を聞きたい。」というご希望をうけ、１月10日にきづきクリニック院長　木築野百合先生（滋賀医科大学医学科卒業・５期生）をお招きし、「女性が医師として働く際の仕事と家庭の両立、親の病院を継ぐわけではなく自分で開業すること」について、ご自身の経験を通して、「それぞれの岐路では人とのかかわりがあり、決して自分ひとりで現在の自分がある訳ではない。」という温かなお話を聞かせていただきました。

参加者の声（抜粋）

- 先生がどのように医師としての人生を歩んで来られたのか具体的に、楽しくお伺いすることができ、大変参考になりました！子育てのことや、進路の選択など、視野が広がりました。もっと柔軟に考えてみようと思えました。
- 「女医さんも子育てするべき、仕事をするべき」という力強い励ましの言葉を聞けて、勇気が湧きました。一人で苦労を抱え込むのではなく、人を巻き込んで、もちつもたれつの関係で良いと思うと、気が楽になりました。
- 将来について全く想像できず、悩んでモチベーションも若干落ちぎみでしたが、今は将来の事を深く悩まず、色々な事に参加しようと思いました。
- 楽しかった！　話を聞いて、エネルギーをもらった気がする。今まで、先輩の先生方とつながる機会がなかったので、知り合えてよかった。
- ざっくばらんなお話をうかがえて楽しかったです。今まで授業で大学の先生に講義していただいて、先生方の素晴らしい経歴に萎縮気味でしたが、「町医者」として働いてらっしゃる先生のお話をうかがえて医師像を描く助けになりました。

講演報告

第２回は「地域の第一線で働く診療所医師からの話を聞きたい。」というご希望をうけ、４月23日にあざいリハビリテーションクリニック院長 松井 善典 先生（滋賀医科大学医学科卒業・25期生）をお招きし、「医学生・看護学生のあなたがプロの医療者になるための『二人の自分』を大切に育てるコツ」という表題で、御自分の体験談を通して、成長していくうえでのロールモデルとなる人との出会い、応援し支援してくれる方とのご縁、経験を振り返ることについて、和やかにお話を聞かせていただきました。

参加者の声（抜粋）

- 幸せそうな仕事だなと思いました。今後の自分の進路選択にとても参考になりました。
- 専門の授業も始まっておらず、卒業後に医師として働いている自分を、具体的に想像できず、今何をすべきなのか日々悩んでいました。今日先生のお話をきいて、今後どうしていったら良いのか、例えばメンターやロールモデルを探すなど、たくさん学ぶことができて良かったです。
- 「与えられた役割と環境を生かして」と「成人学習型」の２点が印象に残りました。普段、何気なく過ごしている大学生活や出会いにも意味があり、その中で疑問を感じ、行動に移すことを目標にしたいと思います。授業では聞けない重要なヒントを教えていただき、本当にありがたかったです。
- 「目標のたて方」という言葉にはっとしました。医学部に入学して以来活動したくても日々の勉強に忙殺されてやりたい学びが全くできずより消極的になっている自分に嫌気がさす日々でしたが、今は今の自分にふさわしい目標をたてようと思います。
- 「自分らしい自分」と「プロとしての自分」という見方がなかったので、日頃のモヤモヤを整理するきっかけとなりました。
- 「二人の自分」とタイトルにあったので、ONとOFFを切りかえる方法をレクチャーして頂けるかと思い来ました。（ONとOFFを切りかえないと、気持ち的にやっていけないのかな、と勝手に思い込んでいました。）実際にお話をお聞きすると、「自分らしい自分」と「プロらしい自分」をどう一致させるかという、切り口が違っていたので、色々な考え方があるのだなと勉強になりました。
- 松井先生の言葉には、人を思う愛情がにじみ出ていました。看護師の役割も、先生のような地域の患者さんとご家族の方々に信頼される素晴らしい医療者像だ、と思いました。

総会報告

平成26年度総会を、5月15日に開催しました

総会では平成25年度の事業・決算を承認いただくとともに、平成26年度に向けての事業計画や予算計画を審議していただきました。

平成26年度の事業計画とその予算額、また事業を実施していくうえで必要な収入計画について簡単に説明します。

医学生等を対象とした地域理解研修活動支援事業……130万円

地域理解と地域医療者や住民との交流を目的とした宿泊研修を行う。

夏の宿泊研修　平成26年８月下旬に　近江八幡市方面

春の宿泊研修　平成27年３月中旬に　湖北方面

医学生等を対象とした地域医療ワークショップ支援事業……25万円

- 滋賀県出身自治医科大学同窓会「さざなみ会」との共催で、県内各地で働く医師の活動を体験してもらう「体験学習」を行う。
- 学生が将来を考えるうえで参考となる先輩方の経験談等を通して、将来を考える一助となるための「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催する。
- 地域医療に興味を持つ医学生と滋賀県出身自治医科大学同窓会「さざなみ会」との交流の場を設ける。

病院・診療所実習の企画・調整事業……２万円

県下の病院･診療所での実習情報を集め、学生に周知する。

地域医療等に関する市民講座開催事業……２万円

地域からの依頼により地域住民を対象とする医療の最新知識、医療機関の上手な利用方法、がん予防などについての啓発活動を行う。今年は、「在宅看取り」をテーマに啓発活動を行いたい。

大学、病院、診療所等職員の学生指導レベル向上のための研修事業……２万円

県下医師･看護師養成機関教職員ならびに病院内指導者を対象に、学生への教育･学生支援技術向上のための研修を行う。

地域医療の担い手育成に必要な調査研究活動……２万円

県下医師･看護師養成機関と連携し、地域医療の担い手育成のために必要な調査等を行い、今後の事業展開を図る。

地域医療の担い手育成に関わる諸組織間の連絡調整事業……２万円

医学部・看護学部への進学を希望する県内在住の高校生に、本機構の活動内容をお知らせするとともに、滋賀県キャリアサポートセンターと連携し地域枠の学生を応援していく。

地域「里親」による医学生等支援事業……23万円

地域「里親」による支援事業を、滋賀医科大学里親学生支援室と連携して取り組む。

本法人の取り組みや活動内容を積極的に広報し、その取り組みの支援者増加を図る事業 …330万円

広報誌「めでる」、ホームページの内容を充実し、活動の普及を図る。

本法人活動のための資金を確保する募金活動……１万円

広報活動を広く行い寄附金を募る。

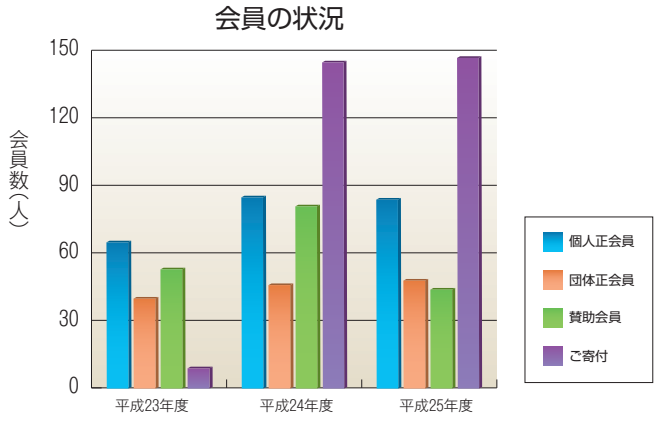
管理費……230万円

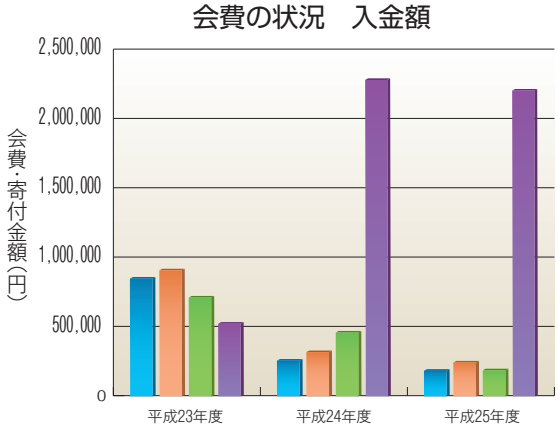
事業を行うための通信費、消耗品費、人件費に使用します。

一方、収入としては、昨年度の繰越金が約290万円、正会員・賛助会員からの年会費が約80万円、寄附金約300万円、地域医療を担う医師等育成事業補助金約200万円程度と計画しています。

設立以来の、会員数と会費・寄附金の状況は下のとおりです。

年度別 会員数と会費・寄附金の状況





設立以来、多くの皆さまのご理解とご協力をいただき、本年３月には滋賀県から、広く市民からの支持を受けているとの判断で認定特定非営利活動法人として認定をいただきました。

これもひとえに皆さまの御協力の賜物と感謝いたします。

この認定特定非営利活動法人であるためには、「毎年3,000円以上の寄付金を100名以上の方々から受けること」と、なっています。今後とも御協力いただきますようお願いします。

入会のご案内

周囲の方にも、
一声おかけ下さい。

滋賀医療人育成協力機構は、地域の皆さまと共に地域医療を担う医学生看護学生の育成支援を行うとともに、滋賀県の医療福祉の向上に寄与することを目的に設立され、皆さまからの会費とご寄附を財源として、活動を進めております。

会員は、**正会員**（毎年定まった金額の年会費を納めていただく）と、**賛助会員**（毎年、1,000円以上を納めていただく）に分かれています。

また、寄附金は随時受けつけています。

正 会 員　：●総会での決議権があります。

正会員の種類	会　費		入会金（初年度のみ）
個　人	会費　2,000円	寄附金 3,000円以上	5,000円
団　体	会費　5,000円	寄附金 5,000円以上	10,000円

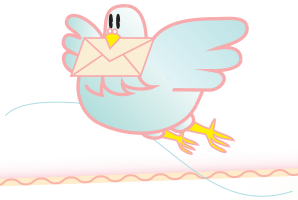
賛助会員　：●総会での決議権がありません。
●年会費として毎年、1,000円以上、できましたら認定ＮＰＯ法人としての基準を満たすために、おひとり当たり3,000円以上をお願いします。

ご 寄 附　：●皆さまのご篤志をお願いします。
●寄附金額は決まっていませんが、できましたら認定ＮＰＯ法人としての基準を満たす3,000円以上をお願いします。

入会や寄附に関するお問い合わせは、機構事務局（077−548−2802）にご連絡ください。

去る３月13日に、滋賀県から認定特定非営利活動法人として認定をいただきました。本機構に寄附をされますと寄附金は寄附金控除の対象となりますので、所得税の確定申告をされますと、寄附金から2,000円を引いた金額の40%が所得税から軽減されます。

「滋賀医科大学里親学生支援プログラム」に参加し、
今年３月に卒業された里子の方からお便りをいただきました。



私は現在、滋賀医科大学附属病院の看護師１年目で、忙しい毎日を過ごしています。業務を覚えることで必死ですが、看護師になったことへの喜びと、また学生のときにはなかった責任感を日々感じています。

私は学生時代、里親学生支援事業に登録しお世話になりました。すでに社会で活躍されている卒業生の方と交流できたことは、学生の私に刺激を与え、また学校でのできごとを報告したり、相談したり、聴いてもらえる安心感がありました。将来のことをイメージするのは難しいですが、卒業生との交流によって、医師・看護師になった後にも、さまざまに道を進むことができることを知りました。医療は幅広い分野があり、様々な場面で活躍されている方と交流できることで、自らの将来についても考える機会が増えたと思います。

私は里親学生支援事業に登録していたことで、さらに滋賀県が好きになり、地域医療に貢献したいと思うようにもなりました。里親学生支援事業が今後も継続されることを、そして滋賀県で働きたいと思う学生が増えることを願っています。

栗　田　知　美
滋賀医科大学看護学科卒業（17期生）

編集後記

この春、地域「里親」による学生支援事業を始めた学年の医学生が卒業されました。

初年度は、この事業に参加された学生と参加されなかった学生の県内医療機関への就職率を比較すると、参加された学生の県内への就職率は高く、「この事業の意義はあった。」といううれしい結果が出ました。事業の成果は直ぐに表れる訳ではありませんが、少しずつ良い方向に進んでほしいと思います。

春の宿泊研修では、比叡山横川にあります滋賀医科大学霊安墓地を訪れ、医学教育・研究のためにご献体いただきましたしゃくなげ会員1452名の御霊にお礼を申し上げ、墓地の清掃をさせていただきました。本機構へご寄附される方、会員になってくださる方には、多くのしゃくなげ会員がおられます。改めましてそのご篤志にお礼申し上げます。

NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.6

発　　行：平成26年６月１日
編　　集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所 在 地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
ＴＥＬ：077-548-2802　FAX：077-548-2803
Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
ＵＲＬ：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/